

群馬工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	システムプログラム
科目基礎情報				
科目番号	4J015	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科	対象学年	4	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	教科書:コンパイラ 作りながら学ぶ:中田育男,自作教材: 講義用keynoteスライド印刷物(配布)			
担当教員	木村 真也			
到達目標				
1 コンパイラを構成する基本的なアルゴリズムを説明できる。 2 文句解析を理解でき、簡単的な文句解析器を自作できる。 3 構文解析を理解でき、簡単的な構文解析器を自作できる。 4 コード生成を理解でき、スタックマシンのコード生成器を自作できる。				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	コンパイラを構成する基本的なアルゴリズムを十分に説明できる。	コンパイラを構成する基本的なアルゴリズムを説明できる	コンパイラを構成する基本的なアルゴリズムを説明できない	
評価項目2	文句解析を理解でき、簡単的な文句解析器を十分に自作できる	文句解析を理解でき、簡単的な文句解析器を自作できる	文句解析を理解でき、簡単的な文句解析器を自作できない	
評価項目3	構文解析を理解でき、簡単的な構文解析器を十分に自作できる	構文解析を理解でき、簡単的な構文解析器を自作できる	構文解析を理解できず、簡単的な構文解析器を自作できない	
評価項目4	コード生成を理解でき、スタックマシンのコード生成器を十分に自作できる	コード生成を理解でき、スタックマシンのコード生成器を自作できる	コード生成を理解できず、スタックマシンのコード生成器を自作できない	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	この科目では、高級言語で書かれたプログラムを機械語のプログラムに変換する『コンパイラ』の原理について学ぶ。前期は、プログラム動作環境を提供するコンピュータの基本原理を理解し、文法の定義方法、コンパイラの初期段階に位置づけられる文句解析技法を理解する。また、文句解析プログラムを解析し、機能追加課題に取り組む。後期は、構文解析、意味解析の手法を理解し、コード生成儀表を学ぶ。PL/0'言語を拡張したPL/H言語について、コンパイラ作成演習をおこない、理解を深める。			
授業の進め方・方法	講義と実習を交互に行うスパイナル方式で進める。教科書掲載のPL/0'コンパイラをベースに、機能拡張したPL/H言語コンパイラを自分で動かしてみる中で、コンパイラの原理を理解する。			
注意点	授業関連サイト: http://www.ice.gunma-ct.ac.jp/~kimsyn/subject/SYSPRO_4J/ 予習の必要はないが、復習はしっかりとおこない、課題には自ら取り組むことが重要。			
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	コンピュータとプログラムの関係 コンパイラの概要・高級言語の位置づけ	
		2週	プログラムと処理系の図式表示方法 変換系と通訳系	
		3週	後置記法	
		4週	スタック	
		5週	論理的構造	
		6週	物理的構造	
		7週	バッカス記法 構文グラフ	
		8週	中間テスト	
後期	2ndQ	9週	文法と言語の形式的定義	
		10週	解析木	
		11週	PL/0'言語とPL/H言語	
		12週	文字読み取り処理	
		13週	文句解析	
		14週	正規表現	
		15週	非決定性オートマトンと決定性オートマトン	
		16週	文句読み取りプログラムの解析	
後期	3rdQ	1週	下向き構文解析	
		2週	下向き構文解析	
		3週	下向き構文解析	
		4週	下向き構文解析	
		5週	下向き構文解析	
		6週	下向き構文解析	
		7週	下向き構文解析	
		8週	中間テスト	
4thQ		9週	意味解析	
		10週	意味解析	
		11週	意味解析	

	12週	意味解析	PL/0'の記号表
	13週	仮想マシンと通訳系	仮想マシンの機能
	14週	仮想マシンと通訳系	仮想マシン語への変換
	15週	仮想マシンと通訳系	仮想マシンの実現
	16週	仮想マシンと通訳系	PL/0'マシンとPL/0'の目的コード PL/Hマシン

評価割合

	試験	課題・レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	40	10	50
専門的能力	40	10	50